

しょうがい ひと まも しみん 障 害 のある人たちのいのちとくらし を守る市民フォーラム アピール

ことし がつついたち しょうがいしゃじりつしえんぽう はじ さぎょうしょ つか りようりょう ふたん しょうじ
今年4月1日、障害者自立支援法が始まりました。作業所に通ったり、サービスを使うごとに利用料の負担が生じ
るようになりました。

なが あいだいっしょ しごと ともだち さぎょうじょ く しんばい
長い間一緒に仕事をしていた友達が作業所をやめていきました。このままグループホームで暮らしていけるのか心配
です。つういん ぶくやく しょくじ がいしゅつ しえん じゅうぶん う はじ
通院や服薬、食事や外出、コミュニケーションの支援が十分に受けられるのでしょうか。始まったばかりの
しょうがいしゃじりつしえんぽう もと しんこく できごと しんばい ひろ
障害者自立支援法の下で、深刻な出来事やこれからの心配がどんどん広がっています。

「このままのこうひすいじゆん しせつ うんえい つづ こんご しょくいん つづ しせつ
「このままの公費水準では施設の運営は続けていくことはできない」「今後、職員として続けていけるだろうか」施設
のけいさいしゃ げんば しょくいん ひつう さげ ごえ
の経営者や現場で働く職員からも悲痛な叫び声があがっています。

そのようななが 私たちは きょう がつ にち きょうとらふない しょうがい ひと じぎょうしゅ かぞく しえんしゅ おお しみん
そのような中、私たちは、今日7月22日、京都府内の障害のある人たち、事業者、家族、支援者、そして多くの市民
が、おな きもち いちどう つど いまお げんじょう あま ちんたい かいぜん
が、同じ気持ちで一同に集いました。そして、今起こっている現状を明らかにし、どこに問題があり、どこを改善しな
くてはならないかをみんなでかんが あ
考え合いました。

わたし しょうがい せいいつぱいはたら ゆた く ゆめ も い
私たちは、障害があってもなくても、みんな、精一杯働き、豊かに暮らし、そして夢を持って生きていきたいと
ねが しょうがいしゃじりつしえんぽう しょうがい ひと ゆめ じつげん
願っています。しかし、障害者自立支援法では障害のある人たちの夢が実現できるでしょうか。

わたし
私たちは、この「あたりまえを実現する」ために次の事を強く望みます。

1. しょうがい ひと く ひつよう しえん たい りようしやふたん みなお くだ
1、障害のある人がふつうに、あたりまえに暮らすのに必要な支援に対する利用者負担は見直して下さい。
2. しょうとくほしょう せいど かくりつ くだ
2、所得保障の制度を確立して下さい。
3. しえん ひつよう すべ ひと あんしん しえん う ひと さき ばしょ かくほ あんしん はたら ばしょ
3、支援を必要とする全ての人が、安心して支援を受けられるような「人の支えや場所の確保」、「安心して働ける場所」
みとお
の見通しをしっかりとはかってください。
4. きょうとらふ きょうとし きょうとらふない じちたい しょうがい ひと せいかつ すいじゆん さ て
4、京都府、京都市をはじめとした京都府内の自治体が、障害のある人たちの生活の水準を下げないための手だてをも
つとはかってください。また、国に向けては、必要な改善と十分な予算をつけるように はたら
働きかけてください。

きょうとらふない しょうがい ひと かぞく かんけいしゅ しみん だれ ひと く はたら つづ
京都府内の障害のある人たち、家族・関係者のみなさん、そして市民のみなさん、誰もがあたりまえに暮らし働き続
けられるちいきしゃかい めざ いま て ちえ ちから あ きょうどう わ ひろ
けられる地域社会を目指して、今こそ手をつなぎあい、知恵と力を合わせましょう。そして共同の輪を広げていきまし
よう。みち かなら
よう。道は必ずひらけていくはずです。

2006年7月22日 しょうがい ひと まも しみん さんかしゃいちどう
障 害 のある人たちのいのちとくらしを守る市民フォーラム参加者一同